

暴れる鬼 火の粉散らす

地域の魅力
再発見



1月号からスタートした「加西のお祭り Yoiyasai」。市内では各地でさまざまな祭りが行われています。昔から続く伝統的なものも多く、地区ごとに違った特色があります。

今月号は、毎年1月8日に行われる、「東光寺田遊び・鬼会」を紹介합니다。

国の重要無形民俗文化財に指定されている、上・下方願寺両町の伝統行事「田遊び・鬼会」。1月8日の夜、上方願寺町の東光寺で行われました。室町時代末期には始まっていたとされ、450年以上続く祭りです。田遊びの福太郎・福次郎、鬼会の赤青の両鬼は、上・下方願寺町の厄年の男性が引き受け、演じ

東光寺「田遊び・鬼会」

五穀豊穰、無病息災祈る



①②「鬼会」= 鉾で吹貫柱や結界柱を撫で回して悪霊を追い払う青鬼（左）たいまつを振りかざして災厄をはらう赤鬼（右）③「田遊び」= 豊作を祈って農作業のしぐさを奉納する

ます。

田遊びは、稲の豊作を予祝する芸能で、境内で田打ち・代掻き・田植えなど収穫までの行事を模擬的に演じます。田の中に眠る穀霊の発動を促し、当年の稲が豊かに実ることを祈る儀式であり、黒い面と烏帽子姿の福

太郎・福次郎が稲作のしぐさを演じて五穀豊穰を祈願します。県内では同寺のみで営まれています。

鬼会は、たいまつを手に木槌を腰にさした赤鬼と鉾を手にした青鬼が境内の東西からそれぞれ6回（今年はいうるう年のため東の出7回、西の出6回の計13回）お堂を縦横無尽に暴れまわり、悪霊や災難を追い払います。この時、周囲の人たちは「鬼こそ鬼よ、西下の鬼よ」とはやしたてます。赤青の両鬼は、回を重ねるごとに動作が激しくなります。

災厄払う「鬼の花」



参拝客用の鬼の花。受付で購入できる

鬼の花は仏に供える削り花です。椎の木で作られています。参拝客が1年の無病息災を願って持ち帰る花も

含めて100個ほど作ります。椎の木も今や少なくなり、最近では網引町や多可町方面まで切り出しに行くといわれています。12月中旬に椎の木の下見をし、1月4日から鬼の花造りを行います。



鬼の花を奪い合う男たち

第13回目の鬼が退場するのを合図に本堂内陣結界に飾ってある13個しかない「鬼の花」を取るために周りの人たちは殺到します。椎の木が倒され、鬼の花に付いている小枝の奪い合いをします。持ち帰れば、けがれを払い厄除けになるとか、田の水口に挿すと、稲に虫がつかないとも信じられています。

上方願寺町区長の国田徹也さんは「コロナ禍が和らぎ4年ぶりに本格的に開催できました。皆さんの協力があったからこそです。今後も伝統があり、長く続く祭りにしていきたい」、下方願寺町区長の宮川貞二さんは「今年は赤鬼、青鬼とも迫力があり参拝客も喜んでくれたと思います。災厄を払って良い年にしてほしい」とそれぞれ話しました。

KASAI データバンク R5.12.31 現在 (前月比)

人口 / 41,928人 (-52) 男 / 20,581人 (-11) 女 / 21,347人 (-41) 世帯数 / 18,508 (-12)

12月の出生数 / 11人 死亡数 / 51人 ● 2/14、28は市民課・国保医療課窓口を延長 (17:15 ~ 19:00)

● 加西市の市外局番は0790です。誌面では省略しています。

● 加西市HP <https://www.city.kasai.hyogo.jp>

発行 / 加西市 〒675-2395 加西市北条町横尾1000番地 ☎0790②1110(代)

編集 / 総務部秘書課 ☎0790④8701 fax0790④0291

パンチ穴を開けられる場合はこちらを中心に合わせてください

UD

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。